

脱・ペットボトルは世界のトレンド

ペットボトルの水やお茶を買うのは、今や多くの人にとって日常的な行動です。「のどが渴いたときどこでも買える」「水道水よりおいしい気がする」。しかし世界の各地では、環境面でもコスト面でも水道水のほうが優れていると、ペットボトルから水道水に再びシフトする動きが広がっています。

■ 世界各地でペットボトル飲料水禁止の動き



米国では、自治体が、ペットボトル飲料水を購入することを禁止する動きが広がっています。自治体は、自らが安全な水道水を供給していることに自信を持っており、ペットボトルごみの

増加は廃棄物行政を圧迫しているのです。

ロサンゼルス市は、いち早く、1997年以来、市の予算でのペットボトル飲料水購入を制限してきました。2007年、全米市長会で、ペットボトル飲料水が環境に与える影響について議論されたのをきっかけに、同様の対策を取る自治体は続々と増え、現在60以上にのぼっています。

サンフランシスコ市は、2007年に市のすべての部局でのペットボトル飲料水購入を禁止し、年間で50万ドル(約5,000万円)を節約しました。

膨れ上がるごみ処理費用に悩む自治体は、市民や事業者によるペットボトル飲料水購入に歯止めをかける対策も始めました。シカゴ市では、ペットボトル飲料水1本に5セントの税金をかけるという画期的な手段をとりました。ニューヨーク市などでは、市内のレストランにペットボトル飲料水の提供をやめるよう働きかける「水道水に戻ろう」キャンペーンを実施しています。

オーストラリアのシドニー近郊にある人口2,500人の町、バンダヌーンは、2009年7月、町内でのペットボトル飲料水の販売を禁止することを住民の圧倒的多数の支持を得て可決し、条例を制定しました。その決断は世界の注目を集めています。

また英国では、2008年3月、政府がすべての省庁の会議でのペットボトル飲料水の調達を禁止することを発表しました。脱ペットボトルの動きはすでに国レベルにまで進んでいるのです。

■ ペットボトル飲料水のCO₂排出量は水道水の1,000倍

2007年の日本全国でのペットボトル販売量は、約57万トン(ペットボトルリサイクル推進協議会)。この十数年で約5倍に増え、特に水とお茶は著しく増加しました。従来は水は水道の蛇口から汲み、お茶はその水を沸かして淹れていたのに、この十数年で日本人の習慣はすっかり変わってしまいました。

ペットボトルの水のほうが安全でおいしい? 京都市水道局は、2009年、水道水、国産ミネラルウォーター、外国産ミネラルウォーターを飲み比べてもらう「利き水」調査を実施しました。すると「一番おいしい」という回答が最も多かったのは水道水だったのです。

東京大学の平尾雅彦研究室の飲料水のライフサイクルの環境負荷比較調査(2009年3月日本LCA学界で発表)によると、ペットボトル入りミネラルウォーターの生産・流通におけるCO₂排出量は、水道水の約1,000倍にもなるといいます。つまり、ペットボトルから水道水に切り替えれば、CO₂排出量を1,000分の1に削減できることになります。

日本の自治体でも、愛知県豊田市や奈良県生駒市が、使い捨てるペットボトルや缶の使用削減とエネルギー節約のため、庁舎や公共施設内の自動販売機を撤去しています。

近年は水筒ブームが広がり、物心ついたころからペットボトルに慣れてきた若者にも変化が現れてきました。給茶・給水スポットなども、街中に増えてきました。日本にも、脱ペットボトルの波はすでに訪れているようです。

＜ペットボトル飲料水をめぐる世界各地の動き＞

方法	地域
省庁での調達禁止	英国
自治体内での販売を条例で禁止	豪：バンダヌーン
市役所や公共施設での調達禁止	米：ロサンゼルス、サンフランシスコ、 デヴィスなど60自治体 加：バーナビー 伊：フィレンツェ
税の導入	米：シカゴ
市民やレストランへの水道水推奨	米：ニューヨーク 加：トロント 豪：ニューサウスウェールズ州 仏：パリ 伊：ローマ

